

「欧米のヘルスケアビジネスおよびディジーズ・マネジメント研究会」シンポジウム

## 「ディジーズ・マネジメント発展の可能性と課題」

平成 15 年 11 月 20 日開催

講演者・パネリスト(講演順)

田中滋氏(座長)(慶應義塾大学大学院経営管理研究科 教授)

Gregg L. Mayer 氏(Gregg L. Mayer & Company, Inc.)

坂巻弘之氏(財団法人医療経済研究・社会保険福祉協会医療経済研究機構  
研究部長・主席研究員)

松田晋哉氏(産業医科大学公衆衛生学教室 教授)

森山美知子氏(広島大学医学部保健学科臨床看護学講座 教授)

櫻井秀也氏(社団法人日本医師会 常任理事)

下村健氏(健康保険組合連合会 副会長・専務理事)

坂本すが氏(N T T東日本関東病院 看護部長)

吉田学氏(厚生労働省保険局総務課老人医療企画室 室長)

後援

厚生労働省、社団法人日本医師会、健康保険組合連合会

研究会事務局

株式会社 損保ジャパン総合研究所

財団法人 損保ジャパン記念財団



## 目 次

I. シンポジウムプログラム	1
II. パネリスト、講演者略歴	4
III. 講演討議録	9
1. 開会挨拶	
財団法人損保ジャパン記念財団 専務理事 田中 皓	9
2. 討議の枠組みの提示	
慶應義塾大学大学院経営管理研究科 教授 田中 滋 氏（座長）	10
3. 研究会報告書要旨の説明	
株式会社損保ジャパン総合研究所 代表取締役常務・研究主幹 小林 篤	14
4. 論点提起	17
①Gregg L. Mayer & Company, Inc., Dr. Gregg L. Mayer	
"Disease Management in the US Today: Helping the Chronically Ill Live Better Through Empowerment and Support"	17
②財団法人医療経済研究・社会保険福祉協会医療経済研究機構	
研究部長・主席研究員 坂巻 弘之 氏	
「Disease Management のツールと実践モデル」	21
③産業医科大学公衆衛生学教室 教授 松田 晋哉 氏	
「わが国における DM の可能性 ―職域を例として―」	25
④広島大学医学部保健学科臨床看護学講座 教授 森山 美知子 氏	
「Disease Management プロセスの実際と看護師の役割」	29

5. 講演・意見発表	32
①社団法人日本医師会 常任理事 櫻井 秀也 氏 「医師の裁量について」	32
②健康保険組合連合会 副会長・専務理事 下村 健 氏 「保険者から見た疾病管理への期待」	36
③NTT東日本関東病院 看護部長 坂本 すが 氏 「患者教育とディジーズ・マネジメント」	40
④厚生労働省保険局総務課老人医療企画室 室長 吉田 学 氏 「保健・疾病予防と医療保険制度 ～生活習慣病に着目して～」	44
6. パネル・ディスカッション	48
7. シンポジウム総括（座長）	63
IV. シンポジウム講演資料	巻末

## 1. シンポジウムプログラム

### 1. シンポジウム名

「欧米のヘルスケアビジネスおよびディジーズ・マネジメント研究会」シンポジウム

### ディジーズ・マネジメント発展の可能性と課題



(会場風景)

### 2. 主催者・後援

主催：財団法人損保ジャパン記念財団

後援：厚生労働省、社団法人日本医師会、健康保険組合連合会

### 3. 日時・場所

2003年11月20日(木)14:30-17:30

(株)損害保険ジャパン本社2階大会議室

## 4. プログラム

### (1) 開会挨拶

財団法人損保ジャパン記念財団 専務理事 田中 皓

### (2) 討議の枠組みの提示

慶應義塾大学大学院経営管理研究科 教授 田中 滋 氏 (座長)

### (3) 研究会報告書要旨の説明

株式会社損保ジャパン総合研究所 代表取締役常務・研究主幹 小林 篤

### (4) 論点提起

①Gregg L. Mayer & Company, Inc., Dr. Gregg L. Mayer

"Disease Management in the US Today: Helping the Chronically Ill  
Live Better Through Empowerment and Support"

②財団法人医療経済研究・社会保険福祉協会医療経済研究機構 研究部長・主席研究員  
坂巻 弘之 氏

「Disease Management のツールと実践モデル」

③産業医科大学公衆衛生学教室 教授 松田 晋哉 氏

「わが国における DM の可能性 一職域を例として」

④広島大学医学部保健学科臨床看護学講座 教授 森山 美知子 氏

「Disease Management プロセスの実際と看護師の役割」

(休憩)

(5) 講演・意見発表

① 社団法人日本医師会 常任理事 櫻井 秀也 氏

「医師の裁量について」

② 健康保険組合連合会 副会長・専務理事 下村 健 氏

「保険者から見た疾病管理への期待」

③ NTT東日本関東病院 看護部長 坂本 すが 氏

「患者教育とディジーズ・マネジメント」

④ 厚生労働省保険局総務課老人医療企画室 室長 吉田 学 氏

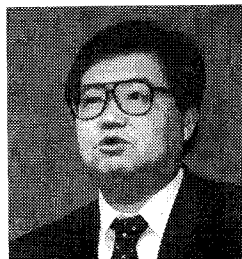
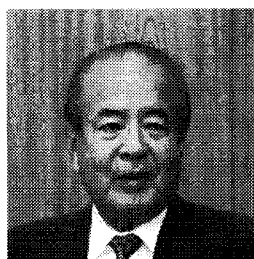
「保健・疾病予防と医療保険制度 ～生活習慣病に着目して～」

(6) パネル・ディスカッション

(7) シンポジウム総括（座長）



登壇



上：パネル・ディスカッション

下：ご講演中の下村氏（左）、吉田氏（右）

## II. パネリスト、講演者略歴（講演順、敬称略）

● <sup>たなか</sup>田中 <sup>しげる</sup>滋（座長）（慶應義塾大学大学院経営管理研究科 教授）

1975年3月 慶應義塾大学大学院商学研究科修士課程修了  
1977年5月 米国ノースウェスタン大学経営大学院修士課程修了  
1977年10月 慶應義塾大学ビジネススクール助手  
1980年3月 慶應義塾大学大学院商学研究科博士課程修了  
1981年4月 慶應義塾大学大学院商学研究科助教授  
1993年4月 慶應義塾大学大学院経営管理研究科教授  
（現在に至る）

● <sup>グレッグ</sup>Gregg L. <sup>メイヤー</sup>Mayer (Gregg L. Mayer & Company, Inc.)

**EDUCATION** B.A., Biology 1981  
Ph.D., Physiology 1987  
**UNIVERSITY OF CALIFORNIA, BERKELEY**

**STUDIES IN JAPAN**

1990-1992 Student at Keio University, Tokyo in the Japanese language program.  
1991-1993 Research student at The Keio University Graduate School of Business Administration.  
1992-1994 Research student at the National Children's Hospital Research Center in Tokyo.

**BUSINESS**

**EXPERIENCE** BERKELEY ANTIBODY COMPANY, INC. (BAbCO), a biotechnology company

1981-1983 Co-founder and Partner  
1983-1986 President and Director

VIVIGEN, INC., a clinical genetic testing company

1985-1992 Director  
1986-1987 Vice President  
1988-1990 President



- MCKINSEY & COMPANY, an international management consulting firm.
- 1993-1995 Associate
- SCIENCE AND TECHNOLOGY CORPORATION @ UNM, a private, non-profit company formed by the University of New Mexico to commercialize university technology.
- 1994- Director
- GREGG L. MAYER & COMPANY, INC., a healthcare management consulting firm
- 1995- President and Founder
- KAISER PERMANENTE INTERNATIONAL, The international subsidiary of the largest HMO in America
- 1996-1998 Director - Japan
- PROACTIVE HEALTHCARE TOOLS, INC., an e-health management organization
- 2000- Founder & CEO

● さかまき ひろゆき 坂巻 弘之 (財団法人医療経済研究・社会保険福祉協会医療経済研究機構  
研究部長・主席研究員)

- 1979年 北海道大学薬学部卒業
- 1992年 慶應義塾大学大学院 経営管理研究科修了
- 1984年 製薬企業勤務 薬剤経済学研究、疾病管理プログラム開発等に従事
- 1997年 慶應義塾大学医学部医療政策・管理学教室研究員・助手  
(現在に至る)
- 1999年 国際医療福祉大学国際医療福祉総合研究所研究員
- 2000年 医療経済研究機構研究部長・主席研究員  
(現在に至る)
- 2001年 共立薬科大学非常勤講師 / 他  
(現在に至る)

●<sup>まつだ しんや</sup>松田 晋哉（産業医科大学公衆衛生学教室 教授）

1985年 産業医科大学医学部卒業  
1985年4月 産業医科大学医学部公衆衛生学教室助手  
1985年4月～1987年6月 産業医科大学病院等で臨床研修  
1991年～1992年 フランス政府給費留学生（フランス国立公衆衛生学校公衆衛生監督医課程入学：フランス保健省公衆衛生監督医見習い医官）  
1992年 フランス国立公衆衛生学校卒業  
1990年～1993年 京都大学医学部研究生  
1993年 京都大学博士号（医学）取得  
1993年4月 産業医科大学医学部公衆衛生学講師  
1997年4月 産業医科大学医学部公衆衛生学助教授  
1999年3月 産業医科大学医学部公衆衛生学教授  
（現在に至る）

●<sup>もりやま みちこ</sup>森山 美知子（広島大学医学部保健学科臨床看護学講座 教授）

1992年5月 カリフォルニア州立大学フレズノ校看護学部大学院修士課程修了  
（看護学修士：老人看護クリニカル・ナース・スペシャリストコース修了）  
1992年～1999年 山口大学医学部公衆衛生学教室研究生  
2000年1月 山口大学博士号（医学）取得  
  
1983年4月 京都第一赤十字病院看護師  
1986年4月 日本赤十字社医療センター看護師  
1992年7月 山口女子大学家政学部助手  
1996年4月 山口県立大学看護学部講師  
1997年9月 厚生省保険局医療課（看護医療専門官）  
1998年4月 厚生省老人保健福祉局老人保健課（訪問看護専門官）  
1999年7月 厚生省健康政策局看護課（看護教育指導官）  
2001年1月 厚生労働省医政局看護課（看護教育指導官）  
2002年4月 広島大学医学部保健学科臨床看護学講座教授  
（現在に至る）

この他、米国でホスピス・グループホーム、訪問看護、高次脳機能障害家族サポートセンター、アルツハイマー病診断センター、市民病院（内科/外科病棟）等で臨床を経験。

●<sup>さくらい ひでや</sup>櫻井 秀也 (社団法人日本医師会 常任理事)

1962年3月 慶應義塾大学医学部卒業  
1963年4月 慶應義塾大学附属病院内科教室  
1970年5月 茅場町共同ビルクリニック開設  
(現在に至る)  
1980年4月～1988年3月 社団法人日本橋医師会理事  
1988年4月～1992年3月 社団法人日本橋医師会会長  
1991年4月～1997年3月 社団法人東京都医師会理事  
1997年4月～1998年3月 社団法人東京都医師会副会長  
1998年4月～ 社団法人日本医師会常任理事  
(現在に至る)  
1998年10月 労働大臣表彰<功労賞>  
2003年5月 藍綬褒章受賞

●<sup>しもむら たけし</sup>下村 健 (健康保険組合連合会 副会長・専務理事)

1956年3月 東京大学文学部卒業  
1956年4月 厚生省入省  
1965年9月 厚生省医務局総務課課長補佐  
1965年10月 石川県経済部観光課長  
1969年4月 石川県企画開発部長  
1970年6月 厚生省大臣官房会計課課長補佐  
1972年2月 社会保険庁医療保険部船員保険課長  
1973年7月 厚生省保険局国民健康保険課長  
1975年7月 厚生省保険局保険課長  
1976年7月 厚生省児童家庭局企画課長  
1978年6月 厚生省薬務局企画課長  
1979年7月 厚生省大臣官房総務課長  
1981年8月 厚生省大臣官房審議官(医療保険担当)  
1984年8月 厚生大臣官房長  
1986年6月 厚生省保険局長  
1988年6月 社会保険庁長官  
1989年11月 船員保険会会長  
1994年2月 健康保険組合連合会副会長・専務理事  
(現在に至る)  
2001年9月 社会保障審議会臨時委員  
(現在に至る)

●<sup>さかもと</sup>坂本 すが (NTT東日本関東病院 看護部長)

1972年 和歌山県立高等看護学校保健助産学部卒業  
1972年4月 和歌山県立医科大学附属病院入職(助産婦)  
1976年 関東通信病院入職 産婦人科病棟勤務  
1989年 関東通信病院産婦人科病棟婦長  
1992年 看護協会看護研修学校管理コース(一年)修了  
1996年 青山学院大学経営学部経営学科卒業  
1997年4月 関東通信病院看護部長(現NTT東日本関東病院)  
(現在に至る)  
1992年～1997年 日本病院学会病院管理委員  
1998年 クリティカルパス研究会幹事  
医療マネジメント学会役員を務める  
(現在に至る)

●<sup>よしだ まなぶ</sup>吉田 学 (厚生労働省保険局総務課老人医療企画室 室長)

京都大学法学部卒業  
1984年 厚生省入省  
1991年 保険医療局管理課(国立病院部運営企画課)課長補佐  
1993年 老人保健福祉局老人保健課課長補佐  
1994年 山口県社会課企画監、高齢保健福祉課長  
1997年 厚生省官房総務課政府委員室国会連絡調整官  
1999年 官房政策課課長補佐・企画官  
(厚生労働省社会保障担当参事官室政策企画官)  
2001年 健康局疾病対策課臓器移植対策室長  
2002年8月 厚生労働省保険局総務課老人医療企画室長  
(現在に至る)

### Ⅲ. 講演討議録

#### 1. 開会挨拶

(田中皓) 本日は皆様お忙しい中、また生憎の天候の中、このように多数お集まりいただきまして、誠に有り難うございます。シンポジウムの開催に当たりまして、主催者として一言お礼のご挨拶を申し上げたいと思います。

損保ジャパン記念財団は、1977年、昭和52年に、当時の厚生大臣の許可を得まして設立され、今年の10月で満26年を迎えたところでございます。当時は安田火災創業90周年という節目、あるいは丁度この本社のビルが完成した時期であり、そういう節目の時期に記念という名称を付けて財団を設立した次第でございます。

設立の目的としては、趣意書によりますと、「我が国の福祉及び文化の発展に資する」ということを掲げておりまして、以来その目的を達成するために、福祉系の現場で活躍されておられます民間の団体の活動支援、あるいは社会保障、社会保険、医療といった分野の研究助成、あるいは講演会の開催、報告書の刊行といった事業を行ってきております。併せて、時代を先取りするテーマをその都度掲げまして、研究会を適宜開催してまいりました。

本日コーディネーターを務めていただく慶應義塾大学の田中先生を座長としますこのディジーズ・マネジメントに関する研究会は、当財団の13番目の研究会という位置付けであります。一昨年からスタートいたしまして、損保ジャパン総合研究所を事務局として2年余に亘る研究活動を続けてこられました。その成果をこの度、「米国におけるディジーズ・マネジメントの発展」という報告書として取り纏めていただき、先般、財団叢書として発行したところでございます。お陰様で、この報告書は各方面の関係者の方々から色々反響をいただいております。研究会の皆さんの熱心な活動とその間のご努力が実ったものと、大変喜んでおります。この報告書につきましては、お持ちでない方は、本日この会場の入り口のところでお配りしておりますので、また後程お受け取りいただければと存じます。

本日のこのシンポジウムは、この報告書の刊行記念シンポジウムとも位置付けております。この研究会がスタートしました頃は、ディジーズ・マネジメントという言葉そのものも非常に耳慣れないという感がいたしておりましたが、本日このシンポジウムのご案内を差し上げましたところ、200名以上の方々からのお申し込みをいただき、このディジーズ・マネジメントに対する関心の急速な高まりを実感している次第でございます。

本日のシンポジウムを開催するに当たり、厚生労働省、日本医師会、健康保険組合連合会におかれましては、それぞれのお立場からシンポジウムの意義をご理解賜りまして、ご後援者となっていただいております。主催者として厚くお礼を申し上げます。

また、研究会の座長として本日のコーディネーターを務めていただく慶應義塾大学の田

中先生、また大変ご多忙の中、貴重なお時間を割いてこのシンポジウムのためにご参加いただきました日本医師会の櫻井常任理事、健康保険組合連合会の下村副会長を始め、パネリストの先生方に対しまして、心から厚くお礼申し上げる次第でございます。誠に有り難うございます。

本日のシンポジウムでは、米国で誕生し発展しつつあるディジーズ・マネジメントが我が国でも有効に機能するのか、あるいはまた、機能するためにはどのような条件整備が必要なのかという観点からご議論をいただけると伺っております。本日のシンポジウムが日本におけるディジーズ・マネジメントの今後の展開に少しでもお役に立つことが出来ればと期待しております。また、このディジーズ・マネジメントに関する研究は、今後更に深めていかなければならない重要なテーマと認識しておりまして、当財団といたしましては、引き続きこの研究会を継続していきたいと考えております。皆様のご理解、ご支援、また忌憚のないご意見をいただければ幸いと存じます。

最後になりますが、ご多忙の中、ご参加いただきました皆様に対しまして、今一度お礼を申し上げまして、開会の挨拶とさせていただきます。本日は誠に有り難うございました。

## 2. 討議の枠組みの提示〈巻末資料1頁〉

(田中) 皆さん、こんにちは。慶應大学の田中でございます。開会に当たり、簡単に趣旨を説明させていただきます。

本日はお足下の悪い中、とても専門的なテーマであるにも拘わらず、このように多数の方に来ていただいて、私共、大変嬉しく思います。それから、この研究会を纏めるに当たって、一緒に2年間色々な発言をして下さった今日のパネリストの方々および事務局にもお礼を申し上げます。また、お忙しい中をお越しいただいた櫻井先生、それから厚労省、NTT病院、及び後程お見えになる下村副会長にもお礼を申し上げます。

今日はあくまでディジーズ・マネジメント研究会でありまして、櫻井先生と下村副会長がおられますが、診療報酬を上げろとか、上げるなどか、それはなしにさせていただくことになっております。主題はあくまでディジーズ・マネジメントです。

また、何よりもこの研究会を2年間サポートいただいた財団にもお礼を申し上げます。私共、やはり財団の支援をいただき、数年前に、国民負担率問題の研究会を持ちました。その後、同じくこの会場でシンポジウムを開きました。いずれもいまでも時宜に適ったテーマと言えるかも知れません。その証拠に国民負担率は経済財政諮問会議等でも非常に大きなテーマになっています。負担率に対する考え方を分析的に提示し、そこで使った数値は旧厚生白書でも大きく取り上げられました。負担率とは何であろうか、一体適正な負担率とは何かをめぐる問題提起が出来たと思っています。その時も財団の支援、それから損

保ジャパン総研、当時の安田総研の助力を得ました。今回は、今専務理事からご案内がありましたように、ディジーズ・マネジメント、これもまた我が国の医療の将来にとってどういう意味を持つか、是非今の段階で調べておくテーマだと思い、私が考えられる限りの最高のメンバーに加わっていただきました。

#### ◆本日のスケジュール

今日は順番としては、まず前半の部分では研究会のメンバーであった方々から報告書の中身、それから報告書を巡るそれぞれの専門家の視点からの説明があります。その時点で一度休憩をいたしまして、もしそこまでの5人の方の発表に対して何か質問がございましたら、お手元の質問票に書いていただいた物を回収し、後でパネル・ディスカッションの時に座長が整理し、各メンバーからお答えいただくつもりです。

休憩の後、今度はいわばコメンテーターとしてお越しいただく4人の方々に、私達の研究報告について、専門家の視点からコメントを頂戴いたします。その後、先ほど申し上げましたように、会場の方々からの質問も踏まえて、私達の間でパネル・ディスカッション形式の時間を持つ予定になっております。どうぞ皆様も是非、ディジーズ・マネジメントという新しいコンセプトがどのようにこの2年間で進展したかについて、私達の報告にまとめられた内容を共有していただきたいと思えます。

ディジーズ・マネジメントとは何かについては、これからのシンポジスト報告にまかせ、私は最初のページ（巻末資料1頁）にありますように、今日の枠組みを提示させていただきます。

ディジーズ・マネジメントには沢山の定義が存在します。今日お話しいただく方々も、それぞれ色々なところで講演をなさったり、研究をなさったりしてきました。それらをいわば共通するある種の柔らかい定義に持っていくことも、本日の目的であります。

#### ◆日本においてディジーズ・マネジメントは有効か？

アメリカでは勿論ディジーズ・マネジメントの話がわが国より先行しています。先行しているには理由があります。単にディジーズ・マネジメントが人々の役に立つというだけならば、そんなに発達しなかったのかも知れません。これはアメリカの医療費の問題とか、マネジドケアとの関わりが大変大きい話です。マネジドケアが悪かったせいなのか、良かったせいなのか、その辺もこれから個々の先生からご指摘がなされるはずですし、私も加わりたいと思っています。

アメリカで進展したディジーズ・マネジメントは、今申し上げたように、アメリカの医療環境の下で発達しました。従って、医療環境も医療ニーズも異なる日本に、そのままダイレクトに持ってくれば良いというものではありません。その点、食べ物とか、IT 機器とか、運べる物には国境はないと思いますが、こちらは社会の仕組みなのです。ディジーズ・マネジメントとは、保険者と医療提供者と利用者、ディジーズ・マネジメントの専門家

